

## 平成26年度 大阪市社会教育委員会議 第2回小委員会 議事録

1. 日 時 平成26年10月10日(金) 午前10時から12時

2. 場 所 大阪市立総合生涯学習センター 6階 第2研修室

3. 出席者

(委員)

岩槻委員・木原委員・久委員・弘本委員・森下委員・宮田委員

(教育委員会事務局)

森本生涯学習部長、濱崎生涯学習担当課長、藏田社会教育施設担当課長、

松村生涯学習担当課長代理

4. 議事概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 出席委員・出席関係職員紹介

(4) 議案

- ・ 小委員会の役員について
- ・ 意見具申について

(5) その他

5. 主な意見等について

(意見具申について)

- ・それぞれの区、それぞれの校下で実情にあわせて事業の内容を考える方向はよいが、根底にあるものを共有できているのか。改めて、社会教育の理念・方向性をしっかり書いておくのが大切。基本の共通理念は共有しつつ個性を出していくことが大切。
- ・社会的包摂という概念はとても重要な概念。識字など、成人基礎教育の中に若い人が入ってきている。学びなおしを必要としている若い人がけっこうたくさんいる。そういった人たちにどのような保障をしていくかというところで、社会教育が担う部分は大きい。
- ・生涯学習の支援のあり方について、ソフト面の成果はたくさんある。この間の生涯学習ルーム事業、はぐくみネット事業の成果の蓄積はあるが、ハード面はむしろ後退している。物理的な場、拠点は絶対に必要。各区レベルでどのように確保していくかが課題。
- ・学校も努力をしているが、先生だけではやりきっていけない課題が山積している中で、地域の人たちとどうかかわっていくか。地域の人たちに学校をどのように支援してほしいのか、学校からの要望をいかに地域に発信して、地域の人材をどう活かしていくのが大切。学校側にどんな要望があるか、地域と常に連携して関係を深めていくなかで伝えていく必要がある。

- ・組織としての温度差をどのように均等化していくかというところで「仕組み」が必要になってくる。
- ・意見具申で一番大事なところは基本理念だと思われるが、基本理念を語るパートがまだないのではないかと。柱の1つとして、「情報の公開・流通」があってもいいのではないかと。
- ・マスタープランが陥りがちな例として、基本理念と具体的な柱立てがリンクしていないことがあるが、対応するようにしていく必要がある。
- ・「人を育てて、人をつなぐ」というのも基本理念にならないか。人をどうつないでいくかは生涯学習を考えていく上で外せないし、どこにも共通するキーワードではないか。
- ・自律と協働の部分は現行の計画の中ですでにうたっているもので、それをどう活かしていくかが次のポイントとなる。地域がまだ管理型になっているので、軋轢が出てきているのではないかと。自律と連携はつながっている。
- ・地域が考え方を変えていく必要がある。
- ・子どもも大人も学ぶ意味、モチベーションをいかにつけていけるかがポイントとなる。モチベーションを発揮していない人に対する動機づけも大切。管理ではなく、支援、どのように支援していくのか。
- ・自律と協働の部分は連携と置き換えても通じると思う。このキーワードについては、前のステージで用意されて継続されていくものだと思う。
- ・「創造」の意味を二重、三重に入れていく必要がある。地域の課題の解決と創造も密接にかかわってくる。明確な答えのない時代に知識の応用ではなくて、解決にもつていけないといけない。これからの時代、創造力は重要視していかないといけない。創造力を評価するのは難しいが、なんとかアップさせていかないとこれからの社会では対応していけない。
- ・生涯学習を広くとらえていくと、際限なく広い領域だと思う。その中で、支援という枠を設けておくことで、行政の立ち位置を明確にできるのではないかと。
- ・これまでの社会教育・生涯学習は自主性を重んじてきた。自律と協働の基本理念にあるように、やりたい人しか相手にしてこなかった面があるのではないかと。そこから取り残された層、やりたいと思わない人をどうしていくか。福祉・労働の分野では積極的にアウトリーチしているが、生涯学習が何ができるかを考えていかないと、届かない。
- ・人との関係が学習の動機づけになることも大きい。憧れ、つながりが学習のきっかけになることもある。
- ・区の中に生涯学習を支援する職員が組織化されていないと、推進は難しい。区における支援機能の強化を書いていく必要がある。
- ・職員も含め、区における人材の確保が大切。大都市制度がどのように決着していく

のであれ、地域と一番身近な区がどうあるべきかを整理しておく必要がある。

- 区だけを考えるのではなく、区と市をどのように有機的に連携させていくか、地域、区、市がどのように連携していくのか、そのあるべき姿を書いていく必要がある。